

編集を終えて

本誌で呼吸器疾患を特集で取り上げるのは、1997年12月号以来になります。前回は感染症、がん、気管支喘息、呼吸機能障害、胸水、肺水腫、肺石灰化症、肺塞栓症など、多岐にわたる疾患を取り上げました。今回は、近年の話題である、①感染症死が透析患者の死因として最も多い、②令和5年に日本透析医会から感染症の診療ガイドライン（六訂版）が発刊された、③感染予防策やワクチン接種の有用性が注目されている、などの点に考慮し、「呼吸器感染症」をメインとした特集号になりました。

本特集では呼吸器感染症の原因（一般細菌、結核・非定型抗酸菌症、真菌、ウイルス）に加え、呼吸器感染時における透析看護、誤嚥性肺炎に対する栄養リハビリテーション、標準的感染予防策と環境対策、ワクチン接種法

などを取り上げています。また、最近注目されている呼吸サルコペニアの疾患概念、肺炎に伴う胸水の鑑別法についても、コラムとして執筆いただきました。

今年も、新型コロナウイルス感染症は夏の流行期に入り、皆さまの施設でも隔離透析をする機会が増えていることと推察します。閉鎖空間で行われる血液透析治療では、流行性感染症を予防するために定期的な換気が必要ですが、この猛暑のために外気との換気が難しいことも、新たな問題になっています。

本特集を通じ、呼吸器感染症の最新動向、治療法、呼吸内科医に紹介するタイミング、標準的感染予防策の重要性などについて、あらためて認識いただける機会になれば幸いです。

（加藤明彦）